

なぜジャパをするのを待つのですか？

リンダ・ミケルセン

1980年の春に、フロリダ州マイアミビーチのバーバの訪問を支援する SYDA ファウンデーションのスタッフメンバーとして、私はセーヴァーをささげていました。私は長男を妊娠していて、出産予定日が近づいていました。

ある夜、バーバのダルシャンに行った時、バーバは私のおなかを指さし、愛のこもった断固とした口調で、「ジャパをなさい」と言いました。

次の日の夜のダルシャンで、バーバは尋ねました。「ジャパをしているかい？」私は、若干心もとなさを感じながら、「はい、バーバ」と答えました。私はジャパをしていましたが、できる限りしているとは言えませんでした。

3日目の夜のダルシャンでは、バーバは「もっとジャパをなさい」と言って、ほほ笑みと共に私を励ましました。

4日目の夜までには、サツァングの参加者全員が、バーバが次に何を私に言うのかを聞こうと待っているように感じました。その夜、バーバは私を直接指さして言いました。「ジャパをすることを決して忘れないように」。

5日目の夜は、言葉はなく、いたずらっぽい笑みを浮かべて、バーバは手を上げて目に見えないジャパ・マーラーの玉に沿って指を動かして見せました。「ジー、バーバ」——「はい、バーバ」——と、私は言いました。私は、バーバの愛で広がり、私と私の子のためになるばかり

りであると分かっているこの指示によって強まった気持ちと共に、ダルシャンから離れました。私は恍惚(こうこつ)感で満たされました。

私の息子は生まれました。そして、彼の弟が 20 カ月後にやって来ました。2 児の母として、私は日常生活の一つ一つに完全に没頭しました。私はマントラ・ジャパをすることを覚えてはいましたが、正直に言えば、最も一貫した実践者だったと言うことはできません。

それらのダルシャンの3年後、私はバーバが私の方に歩み寄ってくる夢を見ました。彼は遠くを見詰めて、「往々にして人々は、人生の終わりまでジャパを始めるのを待つことができると考える」と言いました。そして、彼は背を向けて歩み去りました。

その夢以来、私はマントラ・ジャパをしっかりと実践するようになりました。私はバーバの言葉——「ジャパをしなさい。ジャパをしているかい？ もっとジャパをしなさい。ジャパをすることを決して忘れないように」——を額縁に入れて私のプージャーに置き、それは今もそこにあります。何十年もの間、マントラは一日中途切れることなく、私が瞑想する場所に流れています。人々がバーバに、「日々の活動の中でどのようにジャパをすればよいのでしょうか？」と尋ねると、彼はしばしば、掃除をしたり日々の雑用をこなしながらマントラを、オーム・ナマー・シヴァーヤ、オーム・ナマー・シヴァーヤ、オーム・ナマー・シヴァーヤと繰り返す様子をまねることで、その答えとしたものでした。私はたやすく彼のその姿を思い浮かべることができます。そしてそれは、日々の務めにマントラを取り込むことを私に思い出させます。夜中に目が覚めてしまって、もう一度眠るのに困った時、私は瞑想の境地に入るためにマントラに頼ります。たとえ眠りが妨げられていても、それは私の体とマインドの元気を回復させます。私のジャパ・マーラーは、自分を整えて集中を保つために使えるように、常にそばにあります。

私は、マントラ・ジャパを、心を集中させ安らぎをもたらす仲間として体験します。ジャパは私を大いなる自己へと連れ戻します。ジャパは私を、私のグルの面前に座る内なる空間に置くのです。



© 2022 SYDA Foundation®. 著作権所有。